

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホームあかしあ		
所在地	山口県岩国市今津町1丁目10-9		
電話番号	0827-30-0802	事業所番号	3570801005
法人名	有限会社 サンメディカル		

訪問調査日	平成 20 年 2 月 27 日	評価確定日	平成 20 年 6 月 27 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	14 人	常勤 6 人 非常勤 8 人 (常勤換算 9.7 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	2 ~ 3 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	480 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額 19,500/30日 円			
	内訳 光熱水費 日額650円			

### (4) 利用者の概要 (2月27日現在)

利用者数	18 名	男性 2 名	女性 16 名	
	要介護 1	3	要介護 4	3
	要介護 2	7	要介護 5	1
	要介護 3	4	要支援 2	
年齢	平均 83.3 歳	最低 73 歳	最高 97 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 医療法人まりふ会 森脇神経内科 歯科
-------------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	協力医療機関と医療連携体制をとり、定期的に医師、看護師に利用者の状況を伝え、それに対して職員が取り組むべき対応を記録するなど情報交換をし、安心・安全な協力支援体制が整備されています。記録はカードックスを用い、利用者の介護計画、サービス評価が一目でわかり、職員の共通認識の徹底が図られています。
(特徴的な取組等)	月2回専門の指導者を要請し、音楽療法を取り入れ、利用者の楽しみや力を引き出す取り組みをされておられます。年2回家族会を開催し、夕食を一緒にし懇親会や家族同士の交流を図っておられます。各ユニットで独自に献立を立て、利用者と一緒に食事作りを一緒に楽しんでおられます。

## 【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	一階のデイサービスで配食されていた食事を、各ユニット毎に利用者と一緒に調理、配膳、後片付けをされるように改善され、共同で支え合う関係が深められたようです。
(今回の自己評価の取組状況)	全員に自己評価書を配布し、各ユニットごとに話し合い、それぞれでまとめた上で、管理者、ユニットリーダー、施設主任で検討協議し作成されました。
(運営推進会議の取組状況)	2カ月に1回、メンバーは自治会長、福祉委員、市包括支援センター職員、家族、施設主任、管理者でおこなっておられます。ホームの取り組み状況を話し合い、互いの理解を深める場となっております。
(家族との連携状況)	毎月家族へホーム便りを送り、個々の利用者の写真や状況を報告しておられます。家族ができるだけホームに来ていただけるように、毎月の利用料の支払いを兼ね訪問していただき、その際様子を伝えたり希望を聞いておられます。
(地域との連携状況)	自治会に加入しておりれますが、商店街であり、地域との付き合いは少ないようです。公民館の事業への参加や利用者の関係のある人の訪問等で交流されています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「ゆとりと安らぎ・尊厳のある生活」を理念とし、ホームの運営方針は地域密着を基本とし、地域への貢献を運営方針としている。	
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念をよく見える所に掲示し、ミーティング等で話し合い、全職員で理念を共有し日々のケアを実践している。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会には加入しているが、町並みが商店街で地域との付き合いは少なくホームの理解も十分ではない。	・地域活動、行事の把握
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解している。前回の指摘事項のうち食事作りを検討し各ユニットで取り組み改善した。自己評価は全員に評価表を配布し記入してもらい管理者がとりまとめた。	
5 (10)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2カ月に1回、メンバーは自治会長、福祉委員、市地域包括支援センターの職員、家族、職員で行っている。グループホームの事業や取り組みを話し合い、互いの理解を深める場になっている。	
6 (11)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者とは連携し、運営、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月1回ホーム便りに写真と近況をのせて送っている。家族は毎月の利用料の支払いを兼ね訪問しており、その際、家族に暮らしぶりを報告したり意見や希望も聞き職員の異動についても連絡している。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、外部機関を明示し、苦情処理の手続きも明確に定めている。第三者委員は選任していない。	・第三者委員の選任
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の要望に添うよう勤務調整し対応している。急な場合、管理者や職員間で調整している。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動はあるが、職員間で調整し、できるだけダメージのない様に配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修を行い職員を育成しているが、外部研修の機会が少ない。	・外部研修の機会の確保
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県や地域のグループホーム連絡会や協議会にはいっているが、参加や交流はしていない。他事業所の見学や他事業所の管理者を招き意見交換はしている。	・同業者との交流、勉強会への参加

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	主任が家族と会い、話し合いのもとに入居を決めている。入居後に家族に頻繁に来てもらうようにして対応している。	・馴染みながらのサービス利用の工夫
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	だしの取り方や調理の方法を利用者から教わったり、子育ての悩みにアドバイスを受たりし、学び支え合う関係を築いている。	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	利用者一人ひとりの希望、意向については、日々の状況を申し送りノートに記録し職員全員が確認し共通理解をしている。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	ケアカンファレンスは月1回定期的に開催し、利用者や家族の意見を聞き、職員で話し合い介護計画を作成している。	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	3ヵ月に1回モニタリングを実施している。状況変化に応じその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	散歩、買い物、受診等要望に応じ対応している。医療連携機関と連絡を取り、2週間に1回看護師が来て、健康管理、医療相談を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医療連携の病院での受診はホームが支援している。かかりつけ医の受診は家族が付き添い、情報はきちんと共有している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた指針を作成し、職員が共通理解をし家族にも伝えている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はなく、記録等個人情報は事務所に保管し配慮している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、希望に添うよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好みや状態に合わせ各ユニット独自の献立を立てている。利用者と職員と一緒に準備、後片付けをしている。職員は弁当持参の人も一緒に食事をしている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間は13時から17時で、体調がすぐれない場合を除いて、利用者はほぼ毎日入浴している。入浴介助のマニュアルを作成し職員間で共有している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を活かし、活躍できる場面づくりをしている。大工をしていた男性利用者は包丁を砥ぐのを得意としている。音楽療法は、月2回専門の指導者のもとに実施し楽しい場となっている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、月1回の外食支援(ファミリーレストラン等)をしている。利用者の希望で自宅に月2回帰る方の送迎と付き添い支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	全ての職員が身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害を理解しているが、家族の要望もあり、安全を考慮して鍵をかけている。	・鍵をかけないケアの工夫
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリはと報告書は記録し整備している。転倒など事故の状況を分析して、対策を検討し事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	法人の看護師の指導を受けたり、勉強会を行っているが、訓練は定期的に行っていない。	・定期的な訓練
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を行っているが、地域の協力を得る働きかけはしていない。	・地域の協力の要請

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員は、薬の目的や副作用等を理解している。服薬の支援については、看護師より指導を受け、薬はその都度確実に手渡し服薬している。必要な情報は、医師、看護師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後口腔内のケアを一人ひとりに応じて支援している。歯ブラシや義歯の清掃、消毒、保管について適切に支援している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスに配慮し、一人ひとりの食事、水分摂取量も把握、記録している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルを作成し、手洗いなど予防対策を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	供用の空間は窓が大きく明るく、ソファーや椅子でテレビを見たり等自由に過ごしている。壁には写真を貼ったり、利用者の作品が飾ってある。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッド、タンス以外は利用者の持ち込みで洋服かけ、テレビ、写真を飾ったり、置物や花等好みのものが置かれている。	

## 自己評価書

### 【ホームの概要】

事業所名	グループホームあかしあ
所在地	山口県岩国市今津町1丁目10-9
電話番号	0827 (30) 0802
開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日

### 【実施ユニットの概要】 ( 月 日現在)

ユニットの名称	グループホーム 2		
ユニットの定員	9 名		
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
	要介護 1	2	要介護 4
	要介護 2	2	要介護 5
	要介護 3	3	要支援 2
年齢構成	平均 83.2 歳	最低 74 歳	最高 96 歳

### 【自己評価の実施体制】

実施方法	各ユニットごとに自己評価票を基に各職員に対し面談を行い面談結果を集計。また、ユニットごとの集団での面談(カンファレンス)をおこなう。全ての集計結果を基に管理者、ユニットリーダー、施設主任とでより客観性をもった評価に近づくように協議をおこなう。
評価確定日	平成 20 年 2 月 27 日

### 【サービスの特徴】

(考え方) ご本人の生活スタイルを考慮し、ご自宅で生活されていた時と同じような感覚で安らぎと安心感のもてる環境を作り努めています。また、グループホーム内での社会性は勿論のこと、地域での社会性も維持していただけるように努めています。(接し方) 基本的な考え方として、ご入居者様に対して敬いの心を持った形での接し方に心掛けるとともに、特別な接し方はせず、互いに「あかしあ」の住人としての良好な関係作りに努めています。職員は日々、ケア(認知症介護)の質の向上に努めるべく職員間でケアの見直しを行っています。また、入居者様に対しての「思い込みや押し付け」の無いケアを実施できるように意見交換・研修等、積極的に行っています。(体制) 日中の活動の充実が図れるとともに夜間の対応が円滑に行えるような人員配置(体制)の構築に日々努めています。また、入居者様の健康管理面におきましては、職員同士での観察力の強化と共通認識の徹底を心掛けるとともに、関係医療機関との医療連携の強化と看護師さんからの指導に基づいたケアの徹底に努めています。また、日常的な健康管理や緊急時の対応が円滑に実施できるように体制の整備をおこなっており常に双方の意識向上に繋がるよう努めています。(交流) ご家族等の訪問(面会)も多く、ご家族と職員の交流も充実しています。また、入居者様、ご家族、職員との参加のもと「家族会」を設け、より一層の交流を深めて行けるように努めています。また、地域での催し事等への参加も積極的に取り組んでいきたいと考えています。今後、地域交流の場を増やし介護情報等の提供スペースとしても機能していきたいと考えています。(特徴) 市内中心部という立地条件のため、日常生活上の利便性を活かした生活空間の場を提供するとともに訪問者にとっても訪れやすい環境です。特別な行事等は多くありませんが、日常生活を通しての生活機能訓練や四季を感じられ穏やかに暮らせる空間作りを目指しています。

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		「ゆとりと安らぎ・尊厳のある生活」を、私達は提供いたしません。という理念の基、その人らしさを主体にした日常生活を過ごしていただけるよう努めています。
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		ご本人の生活スタイルや思いをできるだけ聞き入れられるように努力している
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		各ユニットの事務室の目に付く場所へ理念を掲示している。
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		常に利用者の立場に立つように心がけ、各々の職員がサービスの統一、意識統一が図れるように努力している
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		運営推進会議等において当事業所の方向性や理念を理解してもらえるように努力している
2. 地域との支えあい			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		隣近所の方と接した際には必ず大きな声で挨拶をするように心掛けている。
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		利用者さんに関連のある方等の訪問、地域活動をおこなっている方等の訪問や面会等がある。
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		現状においては出来ていない

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	取り組んでいる。前回の外部評価を基に今まで出来ていなかったところや改善が必要と思われるところなど随時、取り組んでいくように努めている	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	ご家族、地域の方や包括支援センターの職員さん等を招き意見要望等を聞き検討した後、サービスに活かせる様に努めている	
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者の方に疑問点や改善すべきところなど細かく指導を頂きサービスの質向上と運営の質向上に対して常に取り組んでいる	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するように支援している。	現在、権利擁護事業利用者さんが入居中の為その都度、利用の必要性や内容については、ある程度、理解し必要性があれば活用できるように支援している。	
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	常に本人を主体とし、利用者に対し対応面(行動等)、会話の面(言葉遣い等)共に配慮している	虐待防止委員会を立ち上げ、今以上に積極的に防止に取り組みたい
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に出来る限り契約内容の詳細を説明し、疑問に思われる事や不安に思われる事に対して理解いただけるように説明をおこなっている	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱や苦情窓口を設け、上がって来たそれぞれの内容に対し実直に受け止め対応し、職員一同共有している	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議、月1回発行の「あかしあ通信」にて近況等を報告している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	常時、閲覧できるように各ユニット入り口に設置		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	現状において不満、意見、苦情等がよせられていないが、今後どのような事が起こっても対応できるようにある程度マニュアル化しており、手続きの流れを明確にしている。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1ヶ月に1回のミーティングの際に意見や提案を出し合ってもらい常に報告を受けている。また、日常的に現場にて直接職員より意見、要望等を聴集し実行できる件に関しては検討後、実行に移すように努めている		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常に利用者に対し十分な対応ができるように職員調整をおこなっている。また、職員にも過度な負担が掛からない様に職員確保にも努めている		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	できるだけ職員の異動等には配慮している。また、離職等に関してもできるだけ最小限に抑えられるように職員一人一人の待遇面(ソフト面)等を充実できるよう常に配慮していきけるように努めている		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修会等をおこない職員育成に努めている。また、マニュアルを作成し実際の現場において基本的な事などについても教育している		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	常に考慮し多面的な対応が出来る様に努めている		
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他事業所の見学(意見交換の場の設定)や他事業所管理者を招き意見交換をおこなう機会を設定		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族との連携を図り、家事との会話の中で見つけられる生活暦や生活習慣等を知ると共に介護者は、それらを把握しより良い介護サービスが提供できるように心掛けている		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族が自由に訪問でき、居心地良く過ごせるような環境作りを心掛けている		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人に馴染みのある方や関係者、また本人が希望されれば訪れてみたい場所等、これまでの生活区域が損なわれないように支援できるよう心掛けている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が関わり合いが持てるように毎日、皆でレクリエーションを行ったり皆で参加できるような行事や場面を作っている		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者の医療依存度が高くなる等でグループホームでの継続的生活が困難になられた方とその家族に対して、退去後の不安が回避できるように必ず他サービスへの移行とその後の経過等、何かあれば相談できる体制を築けるよう心掛けている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの思い等を傾聴し、常にコミュニケーションを図るように心掛け何でも言える関係作りに努めている		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活暦、生活習慣等を把握し、ご本人主体のサービス提供ができるように努めている		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりのケア記録、申し送りノート、口頭での申し送りを徹底し、出勤時には必ず目を通し分からない事や疑問に思う事についてはその都度、解消するように徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンス、ケース会議を開催し、それぞれが聴集した利用者の意見や要望、また職員の意見を出し合い出来るだけ利用者の意向が盛り込まれた形で作成している	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的(6ヶ月に1回)にモニタリングを行い利用者の変化等が生じた場合には本人、家族等と話し合いの機会を持ち現状に即した計画を作成している	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録、申し送りノート、口頭での申し送り等を利用し、情報共有し見直しや気づき等があった際にはその都度、話し合いの機会を持つようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	主治医や医療連携機関、地域の中での各連携機関と連絡調整をおこない、利用者や家族とも良く相談しながら支援するように心掛けている	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ホーム全体でボランティア企画を考え、不定期ではあるが催しを開催している。また防災訓練等、消防の協力にておこなっている	今後、できるだけ柔軟な形で地域社会との結び付きを持っていきたいと考えている
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	不定期ではあるが家族会等の見学などの受け入れをおこなっている	介護ボランティアさんや研修、介護相談などの受け入れを行い地域貢献に心がけていきたいと考えている
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現状ではない	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議等に地域包括支援センターの方を招いた際、当施設にて疑問視しているところなど何かあればその都度、相談等をおこなっている		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	状況に応じ、ご本人・ご家族の意向を踏まえた上での医院受診を心掛けている		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医と提携を結び、常に職員が相談したり入居者が認知症に関する診断や治療が常時、受けられるように配慮すると共に支援している		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	当施設は提携病院との医療連携を結んでいるため入居者さんの日常の健康管理や当施設職員からの医療的相談等を定期的におこないケアのポイント等の相談、助言をもらっている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した際には、当施設が提供できる情報については提供し、時としてお見舞いに行くなどできるだけ利用者の不安を解消できるように努めると共に退院間近においてはSWと退院後の対応等について相談、連携を図るよう心掛けている		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現段階では非該当。当施設の現対応としては重度化、看取り指針を掲げると共に医療連携を結んでいる病院と24時間体制の連携が図れるようにして、その流れにおいても緊急時対応マニュアルに沿って対応できるように心掛けている		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化、終末期等のマニュアルを作成し、医療連携を結んでいる病院の看護師さんを招き全職員に対し研修をおこなっている。また、当事業所が「できること・できないこと」についても現在、検討している最中です。終末期に対するケアについてのマニュアルを作成し職員間で共有している		
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が入居する際、利用者とその家族やSW等と事前に面談(相談)する機会を設け、利用者、家族の意向等を聞きながら当施設が対応できる事のアセスメントをおこない説明をする。また、なじみの物品等があれば持参してもらったり、入居初期においてはできるだけ訪問してもらえるように促すよう心掛けている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>利用者の自尊心を傷つけないように職員の行動、言葉かけに配慮し、記録物等の個人情報の取り扱いにも注意している。また、マニュアルを作成し全職員に対し研修等をおこない周知徹底を心掛けている</p>	
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく入居者が自分の思いやペースを保ちながら自由に暮らせるように努力している</p>	
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>食事作りや下膳、洗濯干し等、個別や共同の作業をして頂きできる力を活かしてもらっている</p>	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の個別の趣味や職歴、特技等を活かせるように配慮し、その人らしい日々が送れるように支援している。職員はその人のペースに合わせて一緒に時間を共有するように心掛けている</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>美容師がホームへ来られるので、殆どの利用者が利用しているが地域の理美容院を希望する人に対しては対応していくように心掛けている</p>	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の状態に合わせての調理方法や盛り付けなどに配慮し、利用者と職員と一緒に調理、準備、食事、片付けをしている</p>	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>入居時にある程度の嗜好を確認し食事に反映させている</p>	<p>利用者一人ひとりができるだけ自由で楽しめるような嗜好環境を今以上に整備していきたいと考えている</p>
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>利用者個々の排泄パターンを把握し、適切な買え掛けや誘導でトイレでの排泄がおこなえるように支援している。また、職員間でオムツの弊害について再認識するように心掛けている。排泄介助についてのマニュアルを作成し職員間で共有している</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 <b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年間行事の中に家族会を取り入れ、家族への参加を呼びかけて気楽に参加し皆さんが交流できるような環境作りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) <b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、正しく理解しており拘束はない。		
75 (28) <b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ユニットから一步出るとすぐにエレベーターや階段に繋がっている為、目が届かない時に安全を考慮して施錠することもあるが、基本的には施錠することは無く入居者の自由な暮らしを支えている。反面、家族からの要望として「出入り口に施錠をしてもらった方が安心するし、これがあるから入居を強く希望した面もあります」と施錠の希望があるのも事実です。		
76 <b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者に対しての行動を勤務職員全員で把握し連携を図り安全に配慮している。		
77 <b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々人の状況・状態に応じてできるだけ利用者保管・管理を心掛けていたが、現状においては誤飲等の危険性が高いため職員預かりとしている。		
78 (29) <b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	各種マニュアルを整備するとともに、関係法人の医療機関の看護師等の指導を受けたり勉強会等を行い事故防止等に努めている。		
79 (30) <b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各種マニュアルを整備するとともに、関係法人の医療機関の看護師等の指導を受けたり勉強会等を行い事故防止等に努めている。		
80 <b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書、ヒヤリハット報告などは、どんなに小さな事でも記入し、事故防止のための改善策を講じ職員相互で共有している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害等のマニュアルを作成するとともに、消防所との連携の下、常に災害に対する対応には気をつけている。また、協力医療機関とも連携を図り避難誘導等、利用者や職員の安全確保に努めている。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者や職員から不安に思う事等が発生した際には、家族等に連絡をし、不安要素や問題点についての対策を話し合っていけるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者一人ひとりのカーデックスや申し送りノート等、記録内容が工夫され常に職員間での連携を図っており利用者の変化が生じた場合、連携医療機関へ情報提供し適切な処置がおこなえるように努めている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬については受診時、職員が同行し医師より薬についての指導を受けている。また、服薬時の支援方法に関しては、連携医療機関の看護師より指導を受けている。利用者一人ひとりの症状の変化について、必ず医師・看護師に報告を行っている。		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	職員一人ひとりが利用者の健康状態を把握し、水分補給や食事の工夫を行うと共に適度な運動を行ってもらうように心掛けている。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	昼食後は声掛け程度であるが、自力で口腔洗浄が困難な利用者に対しては職員が行っている。朝、夕に関しては口腔洗浄や義歯洗浄等を行っている。また、状況に応じて歯科受診の支援も行っている。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの体調等を考慮し、1日の水分摂取量・栄養バランスを考え目標量が確保できるように対応・支援している。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染予防のマニュアルを作成しその都度、予防対策を講じている。また、インフルエンザにおいては家族に了承をいただき予防接種を行っている。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒等のマニュアルを基に全職員に周知徹底をし、衛生管理に最善の注意を払っている。また、食材に関しては鮮度を重視すると共に温度管理・賞味期限においても最善の注意を払っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	目が届かない時は、安全を考慮して施錠をする事もあるが基本的には日中は施錠することなく利用者の自由な暮らしを支えている。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は窓が広く明るい。ソファやテレビ、観葉植物や利用者作成の季節に応じた貼り絵カレンダーなど掲示することにより季節感等を感じてもらっている。音の大きさ、明るさ、などにも注意をはらうよう努めている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者一人ひとりの居室を設けており、ゆったり過ごしていたり、食堂に設置してあるソファにて利用者同士で談笑され楽しい時間を過ごされている。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッド、タンス、椅子、電気スタンドはホーム備え付けであるが、テーブルやテレビ、洋服掛けを持ち込まれ好みに応じた部屋作り、本人が作成した作品を飾る等、居心地良く過ごせるように工夫している。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝、窓を開け細まめに換気を行うと共に各居室に設置してある換気扇を利用し臭いや空気のおどみが無い様に努めている。また、心地良い室温の設定に注意している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	浴槽、便座、流し台等は、必要に応じ自助具を取り付け、要所要所に滑り止めや手すりの設置等、利用者が使いやすい様に工夫している。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	常に職員は利用者の行動を見守り、混乱や失敗を防ぐよう、さり気なく声掛けや誘導をおこなっていけるように努めている。	
97	<b>建物の外周りや空間の活用</b> 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋上にプランターを設置し季節に応じた花や野菜を植えたり、洗濯物を職員と一緒に干したりと、気分転換の場として屋上を利用している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない

## 自己評価書

### 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム あかしあ
所在地	山口県岩国市今津町1丁目10-9
電話番号	0827 (30) 0802
開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日

### 【実施ユニットの概要】 ( 月 日現在)

ユニットの名称	グループホーム 3		
ユニットの定員	9 名		
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
	要介護 1	2	要介護 4
	要介護 2	5	要介護 5
	要介護 3	1	要支援 2
年齢構成	平均 83.3 歳	最低 73 歳	最高 97 歳

### 【自己評価の実施体制】

実施方法	各ユニットごとに自己評価票を基に各職員に対し面談を行い面談結果を集計。また、ユニットごとの集団での面談(カンファレンス)をおこなう。全ての集計結果を基に管理者、ユニットリーダー、施設主任とでより客観性を持った評価に近づくように協議をおこなう。
評価確定日	平成 20 年 2 月 27 日

### 【サービスの特徴】

(考え方) ご本人の生活スタイルを考慮し、ご自宅で生活されていた時と同じような感覚で安らぎと安心感のもてる環境を作り努めています。また、グループホーム内での社会性は勿論のこと、地域での社会性も維持していただけるように努めています。(接し方) 基本的な考え方として、ご入居者様に対して敬いの心を持った形での接し方に心掛けるとともに、特別な接し方はせず、互いに「あかしあ」の住人としての良好な関係作りを努めています。職員は日々、ケア(認知症介護)の質の向上に努めるべく職員間でケアの見直しを行っています。また、入居者様に対しての「思い込みや押し付け」の無いケアを実施できるように意見交換・研修等、積極的に行っています。(体制) 日中の活動の充実が図れるとともに夜間の対応が円滑に行えるような人員配置(体制)の構築に日々努めています。また、入居者様の健康管理面におきましては、職員同士での観察力の強化と共通認識の徹底を心掛けるとともに、関係医療機関との医療連携の強化と看護師さんからの指導に基づいたケアの徹底に努めています。また、日常的な健康管理や緊急時の対応が円滑に実施できるように体制の整備をおこなっており常に双方の意識向上に繋がるよう努めています。(交流) ご家族等の訪問(面会)も多く、ご家族と職員の交流も充実しています。また、入居者様、ご家族、職員との参加のもと「家族会」を設け、より一層の交流を深めて行けるように努めています。また、地域での催し事等への参加も積極的に取り組んでいきたいと考えています。今後、地域交流の場を増やし介護情報等の提供スペースとしても機能していきたいと考えています。(特徴) 市内中心部という立地条件のため、日常生活上の利便性を活かした生活空間の場を提供するとともに訪問者にとっても訪れやすい環境です。特別な行事等は多くありませんが、日常生活を通しての生活機能訓練や四季を感じられ穏やかに暮らせる空間作りを目指しています。

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		「ゆとりと安らぎ・尊厳のある生活」を、私達は提供いたしません。という理念の基、その人らしさを主体にした日常生活を過ごしていただけるよう努めています。
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		ご本人の生活スタイルや思いをできるだけ聞き入れられるように努力している
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		各ユニットの事務室の目に付く場所へ理念を掲示している。
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		常に利用者の立場に立つように心がけ、各々の職員がサービスの統一、意識統一が図れるように努力している
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		運営推進会議等において当事業所の方向性や理念を理解してもらえるように努力している
2. 地域との支えあい			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		隣近所の方と出合った際には必ず挨拶をし、時として立ち話等をするが、町並みが商店街のためか気軽に立ち寄れるような環境とまではいかない
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		現状においては出来ていない
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		現状においては出来ていない

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	取り組んでいる。前回の外部評価を基に今まで出来ていなかったところや改善が必要と思われるところなど随時、取り組んでいくように努めている	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	ご家族、地域の方や包括支援センターの職員さん等を招き意見要望等を聞き検討した後、サービスに活かせる様に努めている	
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者の方に疑問点や改善すべきところなど細かく指導を頂きサービスの質向上と運営の質向上に対して常に取り組んでいる	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	現在、権利擁護事業利用者さんが入居中の為その都度、利用の必要性や内容については、ある程度、理解し必要性があれば活用できるように支援している。	
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	常に本人を主体とし、利用者に対し対応面(行動等)、会話の面(言葉遣い等)共に配慮している	虐待防止委員会を立ち上げ、今以上に積極的に防止に取り組みたい
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に出来る限り契約内容の詳細を説明し、疑問に思われる事や不安に思われる事に対して理解いただけるように説明をおこなっている	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱や苦情窓口を設け、上がって来たそれぞれの内容に対し実直に受け止め対応し、職員一同共有している	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議、月1回発行の「あかしあ通信」にて近況等を報告している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p><b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18 (8)	<p><b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p><b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20 (9)	<p><b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		
21 (10)	<p><b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p><b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
23	<p><b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24 (12)	<p><b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族との連携を図り、家事との会話の中で見つけられる生活暦や生活習慣等を知ると共に介護者は、それらを把握しより良い介護サービスが提供できるように心掛けている		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族が自由に訪問でき、居心地良く過ごせるような環境作りを心掛けている		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人に馴染みのある方や関係者、また本人が希望されれば訪れてみたい場所等、これまでの生活区域が損なわれないように支援できるよう心掛けている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が関わり合いが持てるように毎日、皆でレクリエーションを行ったり皆で参加できるような行事や場面を作っている		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者の医療依存度が高くなる等でグループホームでの継続的生活が困難になられた方とその家族に対して、退去後の不安が回避できるように必ず他サービスへの移行とその後の経過等、何かあれば相談できる体制を築けるよう心掛けている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの思い等を傾聴し、常にコミュニケーションを図るように心掛け何でも言える関係作りに努めている		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活暦、生活習慣等を把握し、ご本人主体のサービス提供ができるように努めている		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりのケア記録、申し送りノート、口頭での申し送りを徹底し、出勤時には必ず目を通し分からない事や疑問に思う事についてはその都度、解消するように徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンス、ケース会議を開催し、それぞれが聴集した利用者の意見や要望、また職員の意見を出し合い出来るだけ利用者の意向が盛り込まれた形で作成している	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的(6ヶ月に1回)にモニタリングを行い利用者の変化等が生じた場合には本人、家族等と話し合いの機会を持ち現状に即した計画を作成している	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録、申し送りノート、口頭での申し送り等を利用し、情報共有し見直しや気づき等があった際にはその都度、話し合いの機会を持つようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	主治医や医療連携機関、地域の中での各連携機関と連絡調整をおこない、利用者や家族とも良く相談しながら支援するように心掛けている	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ホーム全体でボランティア企画を考え、不定期ではあるが催しを開催している。また防災訓練等、消防の協力にておこなっている	今後、できるだけ柔軟な形で地域社会との結び付きを持っていきたいと考えている
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	不定期ではあるが家族会等の見学などの受け入れをおこなっている	介護ボランティアさんや研修、介護相談などの受け入れを行い地域貢献に心がけていきたいと考えている
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現状ではない	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議等に地域包括支援センターの方を招いた際、当施設にて疑問視しているところなど何かあればその都度、相談等をおこなっている		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	状況に応じ、ご本人・ご家族の意向を踏まえた上での医院受診を心掛けている		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医と提携を結び、常に職員が相談したり入居者が認知症に関する診断や治療が常時、受けられるように配慮すると共に支援している		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	当施設は提携病院との医療連携を結んでいるため入居者さんの日常の健康管理や当施設職員からの医療的相談等を定期的におこないケアのポイント等の相談、助言をもらっている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した際には、当施設が提供できる情報については提供し、時としてお見舞いに行くなどできるだけ利用者の不安を解消できるように努めると共に退院間近においてはSWと退院後の対応等について相談、連携を図るよう心掛けている		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現段階では非該当。当施設の現対応としては重度化、看取り指針を掲げると共に医療連携を結んでいる病院と24時間体制の連携が図れるようにして、その流れにおいても緊急時対応マニュアルに沿って対応できるように心掛けている		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化、終末期等のマニュアルを作成し、医療連携を結んでいる病院の看護師さんを招き全職員に対し研修をおこなっている。また、当事業所が「できること・できないこと」についても現在、検討している最中です。終末期に対するケアについてのマニュアルを作成し職員間で共有している		
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が入居する際、利用者とその家族やSW等と事前に面談(相談)する機会を設け、利用者、家族の意向等を聞きながら当施設が対応できる事のアセスメントをおこない説明をする。また、なじみの物品等があれば持参してもらったり、入居初期においてはできるだけ訪問してもらえるように促すよう心掛けている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>利用者の自尊心を傷つけないように職員の行動、言葉かけに配慮し、記録物等の個人情報の取り扱いにも注意している。また、マニュアルを作成し全職員に対し研修等をおこない周知徹底を心掛けている</p>	
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく入居者が自分の思いやペースを保ちながら自由に暮らせるように努力している</p>	
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>食事作りや下膳、洗濯干し等、個別や共同の作業をして頂きできる力を活かしてもらっている</p>	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の個別の趣味や職歴、特技等を活かせるように配慮し、その人らしい日々が送れるように支援している。職員はその人のペースに合わせて一緒に時間を共有するように心掛けている</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>美容師がホームへ来られるので、殆どの利用者が利用しているが地域の理美容院を希望する人に対しては対応していくように心掛けている</p>	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の状態に合わせての調理方法や盛り付けなどに配慮し、利用者と職員と一緒に調理、準備、食事、片付けをしている</p>	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>入居時にある程度の嗜好を確認し食事に反映させている</p>	<p>利用者一人ひとりができるだけ自由に楽しめるような嗜好環境を今以上に整備していきたいと考えている</p>
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>利用者個々の排泄パターンを把握し、適切な買え掛けや誘導でトイレでの排泄がおこなえるように支援している。また、職員間でオムツの弊害について再認識するように心掛けている。排泄介助についてのマニュアルを作成し職員間で共有している</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年間行事の中に家族会を取り入れ、家族への参加を呼びかけて気楽に参加し皆さんが交流できるような環境作りをしている。	
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、正しく理解しており拘束はない。	
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ユニットから一步出るとすぐにエレベーターや階段に繋がっている為、目が届かない時に安全を考慮して施錠することもあるが、基本的には施錠することは無く入居者の自由な暮らしを支えている。反面、家族からの要望として「出入口に施錠をしてもらった方が安心するし、これがあるから入居を強く希望した面もあります」と施錠の希望があるのも事実です。	
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者に対しての行動を勤務職員全員で把握し連携を図り安全に配慮している。	
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々人の状況・状態に応じてできるだけ利用者保管・管理を心掛けていたが、現状においては誤飲等の危険性が高いため職員預かりとしている。	
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	各種マニュアルを整備するとともに、関係法人の医療機関の看護師等の指導を受けたり勉強会等を行い事故防止等に努めている。	
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各種マニュアルを整備するとともに、関係法人の医療機関の看護師等の指導を受けたり勉強会等を行い事故防止等に努めている。	
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書、ヒヤリハット報告などは、どんなに小さな事でも記入し、事故防止のための改善策を講じ職員相互で共有している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	目が届かない時は、安全を考慮して施錠をする事もあるが基本的には日中は施錠することなく利用者の自由な暮らしを支えている。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は窓が広く明るい。ソファやテレビ、観葉植物や利用者作成の季節に応じた貼り絵カレンダーなど掲示することにより季節感等を感じてもらっている。音の大きさ、明るさ、などにも注意をはらうよう努めている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者一人ひとりの居室を設けており、ゆったり過ごしていただいたり、食堂に設置してあるソファにて利用者同士で談笑され楽しい時間を過ごされている。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッド、タンス、椅子、電気スタンドはホーム備え付けであるが、テーブルやテレビ、洋服掛けを持ち込まれ好みに応じた部屋作り、本人が作成した作品を飾る等、居心地良く過ごせるように工夫している。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝、窓を開け細まめに換気を行うと共に各居室に設置してある換気扇を利用し臭いや空気よどみがない様に努めている。また、心地良い室温の設定に注意している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	浴槽、便座、流し台等は、必要に応じ自助具を取り付け、要所要所に滑り止めや手すりの設置等、利用者が使いやすい様に工夫している。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	常に職員は利用者の行動を見守り、混乱や失敗を防ぐよう、さり気なく声掛けや誘導をおこなっていけるように努めている。	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋上にプランターを設置し季節に応じた花や野菜を植えたり、洗濯物を職員と一緒に干したりと、気分転換の場として屋上を利用している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない